

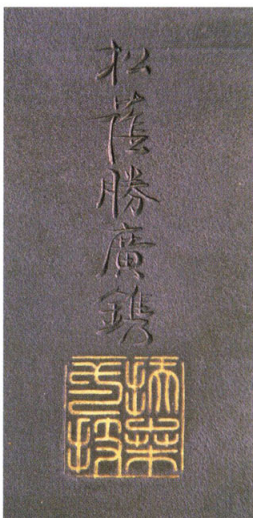


### 13 香川勝廣《和歌浦図額》一点

明治三十二年（一八九九） 四分一・銀・赤銅・銅・金／象嵌  
 五四・七×七六・〇

本作は一九〇〇年パリ万博へ出品するため、宮内省より依頼を受けて製作された。当初は加納夏雄に製作依頼がなされ、『海辺松之図額』が製作されるはずであったが、明治三十一年に加納が逝去したため代役として加納の弟子である香川が抜擢された。香川は加納の出品予定作の額装形式を引き継ぎ、本作では『万葉集』に収録された山部赤人の詠んだ「和歌の浦に潮満ち来れば潟をなみ葦辺をさして鶴鳴き渡る」の歌意に基づいて、その情景を图案化している。最終的な下図は川端玉章によって清書された。額装された平面形式の作品は、一八九三年シカゴ万博への出品に際して金工以外の工芸分野でも数多く製作されており、絵画作品とともに工芸作品が「美術」の区分で展示されることを希望した日本側が、パリ万博でも採用することとなったのである。

本作の画面は三種類の四分一を貼り合わせて色調に変化をつけており、背景は金入りの四分一、手前の砂地は黒色の四分一、波の表現は白色の四分一が使用されている。彼方より飛来する鶴は、銀、四分一、赤銅、朱銅などで高肉象嵌し、岩は赤銅、四分一などで象嵌している。葦の葉は、青金（金に銀を加えたもの）と金を薄肉象嵌と平象嵌して、前後に重なり合う様を表している。また、額縁は赤銅製で、内側の縁は金を平象嵌している。





- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections